

## ○日本の水中文化遺産調査および研究のあゆみ

- ・ **1908** (明治41) 年 諏訪湖底曾根遺跡 (長野県・諏訪湖) の発見
- ・ **1924** (大正13) 年 葛籠尾崎湖底遺跡 (滋賀県・琵琶湖) の紹介
- [1942 (昭和17年) 年 J. Y. クストー・E. ガニャンらによる自給式潜水器 (SCUBA) の発明に]
- [1950年代にG. F. バス (当時, ペンシルバニア大学博物館) らにより, 考古学の一分野として「水中考古学」が確立・認知
- ・ **1950** (昭和25) 年 小江慶雄による葛籠尾崎湖底遺跡出土遺物の分析  
(『琵琶湖底先史土器序説』) → 水中考古学の紹介
- ・ **1959** (昭和34) 年 葛籠尾崎湖底遺跡の総合調査 (水中撮影・音響測深)
- ・ **1963/1965** (昭和38/40) 年 網走湖底遺跡の調査 (北海道・網走市)  
→ 国内初の潜水発掘調査 (ダイバーによる調査) . 遺跡は縄文早期中ごろの沈降遺跡.  
調査主体: 網走市郷土博物館
- ・ **1971** (昭和46) 年 イラク・クルナの調査 (海外調査協力)  
→ 日本オリエント学会 (江上波夫, 水中考古学: 小江慶雄)
- ・ **1974** (昭和49) 年～**1985** (昭和60年) 開陽丸の調査 (日本海・北海道江差町)  
→ 国内初の本格的な水中発掘調査・旧徳川幕府軍艦の調査 (防波堤築造にともなう緊急調査)  
周知化ののち, 調査を実施 (海底遺跡の周知化は国内初) .  
調査主体: 江差町教育委員会
- ・ **1977** (昭和52) 年 水の子岩の調査 (瀬戸内海・香川県内海町)  
→ 潜水発掘調査・古備前の引揚げ ⇒ 遭難船の積荷の可能性・船体はみつからず  
調査主体: 水の子岩学術調査団
- ・ **1980** (昭和55) ～ 文部科学省科学研究費特別研究「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」  
のうち「水中考古学に関する基礎的研究」がスタート  
⇒ 国内初の大規模な水中考古学の実験  
→ 対象地として元寇関連の長崎県鷹島が選ばれる (日本海・長崎県鷹島町)  
音響機器による海底探査, ダイバーによる遺物の引揚げ  
文化庁の水中遺跡の調査研究対象として, 滋賀県の琵琶湖も選ばれる
- ・ **1981** (昭和56) 年 鷹島沖海底の周知化 (鷹島海底遺跡)
- ・ **1983** (昭和58) 年 鷹島海底遺跡・床浪地区の調査 (防波堤築造にともなう緊急調査)  
→ 調査主体: 鷹島町教育委員会
- 粟津湖底遺跡の調査 (陸化による調査) 調査主体: 滋賀県教育委員会
- ⇒ その後, 範囲確認調査・緊急調査がおこなわれる
- 上ノ国漁港遺跡の調査 (日本海・北海道上ノ国町)
- 潜水発掘調査, 16～19世紀の陶磁器の引揚げ ⇒ 陸上由来の遺物  
調査主体: 上ノ国町教育委員会

シリア・タルトス沖海底遺跡の調査（海外調査協力）

→（シリア沖古代遺跡発掘運営委員会・江上波夫，水中調査：田辺昭三）

- ・ **1984**（昭和59）年 日本水中考古学会設立（静岡県清水市，会長：江上波夫）
- ・ **1986**（昭和61）年 九州・沖縄水中考古学協会設立（福岡県福岡市，会長：林田憲三）
- ・ **1988**（昭和63）年 水中考古学研究所設立（京都府京都市，所長：田辺正三）
- ・ **1988**（昭和63）年～ いろは丸の調査（瀬戸内海・広島県福山市）
  - 潜水調査，船体の確認と遺物の引揚げ（19世紀後半の蒸気船）
  - 調査主体：水中考古学研究所（田辺昭三）
- ・ **1992**（平成4）年 神津島海底遺跡の調査（太平洋・東京都神津島村）
  - 潜水調査，沈没江戸廻船の調査（18世紀代，船体は不明，遺物の引揚げ）
  - 調査主体：東京都教育委員会
- ・ **1995**（平成7）年～**1998**（平成10）年 倉木崎海底遺跡の調査（太平洋・鹿児島県宇検村）
  - 潜水発掘調査，12世紀後半～13世紀前半の中国陶磁器多数引揚げ（沈没船由来）
  - 調査主体：宇検村教育委員会，青山学院大学
- ・ **2000**（平成12）年 『遺跡保存方法の検討-水中遺跡-』（文化庁記念物課）
  - 「日本の水中遺跡地名表」「日本の水中遺跡分布図」
- ・ **2001**（平成13）年 水中文化遺産保護条約（UNESCO）採択 → 2009年1月発効
- ・ **2004**（平成16）年～ 小値賀島・前方湾海底遺跡の調査（長崎県・小値賀町）
  - 潜水調査，11世紀～13世紀代の国産土器・中国産陶磁器等引揚げ（沈没船由来？）
  - 調査主体：小値賀町教育委員会・アジア水中考古学研究所
- ・ **2004**（平成16）年～**2010**（平成22）年
  - 沖縄県沿岸部で沿岸地域遺跡分布調査（水中分布調査）の実施
  - 調査主体：沖縄県立埋蔵文化財センター
- ・ **2005**（平成17）年 九州・沖縄水中考古学協会が特定非営利活動法人アジア水中考古学研究所に改編  
 （福岡県福岡市，代表：林田憲三）
- ・ **2006**（平成18）年 東京海洋大学で水中考古学の教育，研究プログラムの開始
- ・ **2007**（平成19）年 海底遺跡見学会（小値賀島海底遺跡） → 海底遺跡ミュージアム構想
  - 実施主体：小値賀町教育委員会・アジア水中考古学研究所
  - 水中考古学研究所が，特定非営利活動法人水中考古研究所に改編  
 （滋賀県守山市，代表：吉崎伸）
- ・ **2008**（平成20）年 日本海域水中考古学会設立（石川県金沢市，会長：佐々木達夫）
- ・ **2009**（平成21）年～**2012**（平成24）年 「海の文化遺産総合調査プロジェクト」
  - プロジェクト主体：アジア水中考古学研究所
- ・ **2012**（平成24）年3月27日 鷹島海底遺跡（鷹島神崎遺跡），国史跡指定〔水中遺跡としては初〕